

波に乗りながら、50年先も考える

— デジタルインフラの2つの時間軸 —

大阪デジタルインフラ協議会 発表資料
さくらインターネット株式会社 社長室 芳浦



短期は波に乗り、長期は50年先から逆算する

短期（いま）

データセンター建設ラッシュに乗る
そこから生まれる課題を解く



長期（50年先）

50年先から逆算して考える
後生に伝えるべきインフラは何か

短期の波は、長期のインフラを整える好機でもある

関西

大阪

どちらも、大阪だけでなく「関西」で考える
大阪は牽引役であり、独占役ではない

データセンターには、「つなぐ」と「計算する」の2つの役割がある

つなぐ | 都市部

- 低遅延での接続が価値
- 金融・クラウドとの接続
- 規模は数MW級（比較的小規模）



補完

計算する | 郊外・湾岸

- 大電力と広い土地が必要
- AI学習・大規模クラウド処理
- 規模は数十～数百MW級

大阪府内だけで受け止める

電力や土地には、府ごとに限りがある



関西全体で役割を組み合わせる

電力・土地の制約も、受け止めやすくなる

50年先から逆算して、いま残すインフラを考える

先人の判断・実績

関西空港

赤字と揶揄されながら、第2滑走路まで整備。いま、あの空港がなければどうなっていたか



私たちの世代の実践

うめきた

ビルで埋め尽くさず、緑ある公園に。目先の利益だけに寄らない判断



いま考えたいこと

次に残すもの

日本海側のインターネット回線の「ミッシングリンク」（つながっていない区間）

先人が残したインフラの上に、私たちの事業がある。次は、私たちが残す番かもしれない。

難しいからこそ、何が欠けているのかを、一緒に洗い出したい

観点の例

技術面の難しさ

事業として成り立つ条件

陸揚げ後の陸上ルート

関係者の合意

大阪が牽引し、関西が活性化し、日本の他の地域にも広がっていく。
そんな姿を、一緒に描けないでしょうか。